
岐阜県立多治見高等学校

学 校 長 大森 誠治
学 校 住 所 多治見市坂上町9-141 電話 (0572)22-4155

1 会 の 名 称 岐阜県立多治見高等学校学校評議員会（第2回）

2 会 の 構 成 委 員 大村 浩司 多治見青年会議所理事長本校卒業生
久米 育太郎 東海旅客鉄道（株）多治見駅首席助役
酒井 小夜子 本校育友会役員(会計監査)
柴田 総江 多治見市子ども情報センター担当者
拜戸 佐江子 本校卒業生

(委員名は五十音順)

学 校 側	大森 誠治	校長
	浅野 靖夫	教頭
	奥村 悟	事務長
	今井 直弘	教諭（教務部長）
	高山 里美	教諭（進路指導部長）
	伊藤 昭嘉	教諭（生徒指導部長）
	古田 健也	教諭（特別活動部長）
	原 輝道	教諭（保健厚生部長）
	山川 英子	教諭（進路指導部）
	渡辺 俊丈	教諭（教務部）

3 会 議 の 目 的 学校運営や教育活動について地域社会や保護者等に情報発信するとともに、要望や意見を幅広く聞き、地域社会からの支援・協力を得て、それを反映できる開かれた特色ある学校づくりを推進する。また、本年度の学校評価に係る学校関係者評価を併せて実施する。

4 会 議 の 開 催 平成24年2月21日（火） 13:30～16:00
多治見高等学校 校長室・視聴覚室
委員4人（1名欠席）と学校側9人が出席

5 会議の概要

- 自然科学コース課題研究発表会参観（視聴覚室）
- 校長あいさつ
- アンケート及び自己評価についての説明
- 学校評議員からの意見聴取・評価等

6 会議の資料

- 平成23年度 生徒及び保護者を対象とするアンケート調査 集計<生徒>
- 平成23年度 生徒及び保護者等を対象とするアンケート調査 集計<保護者・学校評議員>
- 平成23年度 「生徒及び保護者を対象とするアンケート」結果から見た本校の課題等
- 多治見市内中学校等へのアンケート調査結果
- 平成23年度 自己評価・学校関係者評価
- 平成23年度 3年生入試状況
- 平成23年度 部活動の足跡（県大会以上の成績）

7 会議の内容

自然科学コース課題研究発表会参観

- 本校自然科学コース2年生の課題研究発表会で、全17班の発表中7班分を参観した。多方面の分野について、パワーポイントを利用し、実験などの写真や動画を活用するなどして発表が行われた。

校長あいさつ

- 本年度、本校は「学校評価・情報提供の充実・改善に向けた取組」に関する研究指定を受けている。学校評価の進め方、さらに情報をどのように発信していくのかについて研究実践を行っている。学校評議員会で、学校が生徒、地域、保護者の期待に応えるためにどのように改善に取り組んでいるかをチェック・監査していただくことにより、よりよい学校づくりに生かしていくことができると考えている。

今年度は、制服の改善、生徒の安心・安全のための改善（体育大会を春に実施したこと、緊急時のメール配信を始めたことなど）など様々な改革をすすめた。一方で、生徒の学力を付けるという点でまだまだ改善の余地がある。皆さんの忌憚のない意見をよろしくお願ひしたい。学校評議員の視点から、学校に対して日頃思われていることを述べていただければと思う。私たちはそこから本校の課題を見つけ、今後の学校づくりに生かしていきたいと考えている。

学校からの説明 ～自己評価等について

- （教務部より）
 - ・生徒及び保護者アンケートの結果から、教員の学習指導については、生徒からも保護者からも大きな信頼を得ていることが分かる。一人一人の能力に応じた指導という点や多面的な評価という点で課題があると思われる。
 - ・今年度は、カリキュラム委員会を中心に「存在感・達成感をもたせる授業展開」について研究をすすめ、授業改善の方向性を探ることができた。
 - ・一人一人に応じた指導という観点から、自然科学コースを中心に行っている習熟度授業や少人数授業について、他の普通科の授業での実施も視野に入れていきたい。
- （進路指導部より）
 - ・生徒の99%が四年生大学への進学を希望し、その多くが国公立大学を志望している。基礎学力の充実に向けて授業改善を図りつつ、進路説明会や進路講演会など行事や総合的な学習の時間などを通して進路意識の向上を図っている。
 - ・生徒に粘りが足りない面があり、推薦で行き先が1つ確保できると意欲が低下し第1志望まで

気力が続かないという課題がある。高い目標をもたせ、安易に妥協させない指導が必要だと感じている。

○ (生徒指導部より)

- ・身だしなみ指導の徹底を図っている。制服をしっかり着用することはもちろん、身だしなみについて考えさせる指導を行っており、徐々に身だしなみの大切さを認識している様子が見られた。
- ・今年度より月1回「身だしなみ確認週間」を設定し、意識の向上を図っている。
- ・挨拶についてであるが、生徒は校内ではたいへんさわやかに挨拶をするが、校外に出ると気はずさかしさからか、なかなか挨拶できない現状がある。その点を今後指導していきたい。

○ (特別活動部より)

- ・生徒会の運営については、執行部の生徒が主体的に活動しており円滑な運営ができています。
- ・部活動では、多くの部で県大会上位に入賞するなど活躍している。陸上部や水泳部では、全国大会出場を果たした生徒もいる。
- ・ボランティア活動に対して周知不足の面がある。今後は、生徒への広報を進め、ボランティア活動への積極的な参加を促していきたい。

○ (保健厚生部より)

- ・2つの柱をもとに生徒を指導している。1目目は「自分の命は自分で守る」ということ。昨年3月の震災、9月の豪雨などの災害があったが、生徒の安全を確保することができた。救急救命については、毎年救命講習会を行っており、この講習会を通して不慮の事故が発生した際、敏速で的確な応急処置ができるような体制づくりに努めている。2目目は「学習は環境から」で、引き続き環境美化に生徒とともに努めたいと考えている。

自然科学コース課題研究発表会について学校評議員からの意見・感想等

- 意見 1 自分たちで考えた課題に取り組んだ様子であった。すごいことである。ただ、どうしてこのテーマをやることになったのか(きっかけ)がわかると、もっと良い発表になると思う。
- 学校 1 まずグループに分かれて、色々調べながら疑問などを探し研究テーマを決める。教員もそれを援助する。リニアの発表は、生徒独自の興味から出てきたものである。
- 意見 2 昨年も見たが、高校生ならではの発表だったと感じた。生徒の発想を受け止めて指導するのは大変だと思うが、生徒にはよい経験になるだろう。自然科学コースだけではなく、普通科の生徒も例えば文学について調べて発表するなどの場があっても良いと思う。
- 意見 3 発表会を見るのを楽しみにしていた。パソコン技術、プレゼンは、社会人でも通用するぐらいすごいと感じた。これからの若い人が世の中の速い流れに対応するには必要な技術・能力である。普通科にもこのような機会が必要だと思う。
研究に必要な機材は、すべて学校のものか。
- 学校 2 実験道具は、ほぼ学校の機材である。パソコンなどは自分の物を使っている場合もある。今の2年生の自然科学コースの生徒は、パソコン能力に長けたものが多く、教員でもついていけないくらいの生徒もいる。
- 意見 4 自分の子どもも調べたことを外部で発表する機会をもったことがあり、今から思うと貴重な体験であった。生徒はとても良い経験をさせてもらっていると思う。

自己評価に対する学校評議員からの意見・評価等

- 意見 5 卒業や国公立大学2次試験を目前にして、本校に入学して良かったと言える結果であるといいと思う。
- 意見 6 多治見駅は、高校生のJR利用は多く、中にはマナーの悪い者もいる。多治見高校の生徒ではないが、影響を受けることはあると思う。マナーの指導をしっかりと位置づけてもらえるとありがたい。
部活動など様々な活動の様子を見ると、学校中で個人の活躍や能力をアピールする場が用意されており、良いことだと思う。生徒も目標を持ちやすいと思う。
- 学校 3 桔梗賞など、各種の本校独自の表彰をして、生徒のいろいろな側面を評価している。
- 意見 7 子ども情報センターに来る子は、問題ないよい生徒ばかりである。多治見高校へ部活動の取材に伺ったとき、生徒も先生方も協力的でありがたかった。
自主性を伸ばすという点では、養正公民館とのイベントのように、小中学生に自分の得意な分野を教えるような講座を子ども情報センターでもやってほしい。
- 意見 8 アンケートでは、一人一人に応じた指導という点がやや弱いと出たということだが、生徒と先生の間に関わり方の違いのようなものがあるかもしれない。先生は一人一人のことを考え熱心に指導されているが、生徒は十分にそれを感じていないのかもしれない。
一人一人に応じるということだが、あえて言うと上位と下位のどちらに重点を置いて指導しているのか。
- 学校 4 習熟度別クラスなどに取り組み、どちらも同じような重みで指導しているつもりだが、どうしても下位者の指導には時間がかかってしまうことはある。一方で、難関大学へ推薦で入学したい生徒には特別な講座を設けてやっている。
生徒は、日々の課題も多く勉強がたいへんだと思っており、自分が疎外されていると感じていないのではないかと考えている。

校長あいさつ

- 本校にとって「いかに学力を高めるか」が重要な課題である。学力を高めるには自主性を持たせ、自分から勉強するという姿勢が必要で、学習のやり方を教えるところから指導している。しかし、なかなかうまくいかないところがある。自ら学ぶという取組がなければ、進学実績も上がってこないだろうと思う。生徒が自身で研究したり成果を発表する機会を作るなど、自主性をもたせ、自ら取り組ませることが課題である。
災害時も含めて自分の命を守るためには、自立できる人間を作ることが大切である。そのあたりを来年度の本校の課題として、多治見高校をさらに発展させていきたい。
本日は、誠にありがとうございました。